

科学研究費助成事業（学術創成研究費）研究進捗評価

課題番号	18GS0312	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	ホスホイノシタイドによるシグナルの時空間制御		
研究代表者名 (所属・職)	竹縄 忠臣（神戸大学・大学院医学研究科・特命教授）		

【平成21年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(評価意見)		
<p>ホスホイノシタイドは細胞内に微量に存在する生理活性物質であり、生命機能に重要であることが指摘されてきた。しかしながら、その微量さ故にホスホイノシタイド研究は困難であった。</p> <p>本研究課題ではその障壁を乗り越えるべく、ホスホイノシタイド検出法を新たに開発し、その細胞内動態の解明を可能とした。またホスホイノシタイド結合蛋白質を数多く同定し、機能解析を順調に進めている。これらは、ホスホイノシタイド学ともいえる学問領域を創成するものであり、生命科学分野にブレークスルーをもたらす優れた研究である。</p>		

【平成24年度 検証結果】

検証結果	ホスホイノシタイド検出法を新たに開発し、同時に3種のホスホイノシタイドを定量、可視化できたことは、それ自体が本研究の大きな成果である。ただ、欲を言えば、開発された新技法によって解明が可能になった顕著な生命現象の例示があれば、さらに重要な研究となったと思われる。一方、ホスホイノシタイド結合蛋白質については数種のもの解析を推し進め、細胞膜に内向きの突起を形成させてエンドサイトーシスに関与するものや、新規のホスホイノシタイド結合ドメイン SYLF を発見するなど、興味深い研究成果が得られている。全体として順調に展開したと評価できる。
A	